

第22回（2019年度）「七十七ビジネス大賞」贈呈先

○企業の概要

企 業 名：株式会社深松組
代 表 者：代表取締役社長 深松 努
住 所：宮城県仙台市青葉区北山1丁目2-15
設 立 年：1953年（創業 1925年）
業 種：総合建設業、不動産賃貸・取引業
資 本 金：93百万円
従 業 員 数：122名

○事業の概要

当社は1925年創業の歴史ある総合建設業であり、長年にわたり地元宮城県を中心に土木・建築工事を数多く実施しているほか、不動産賃貸業や再生可能エネルギー事業、海外でのサービスアパートメント事業、沖縄県におけるリゾート事業など、社会課題や震災復興需要減退後の建設分野の落込みを見据えた幅広い事業を展開。

○受賞の理由

当社の事業拠点は宮城県の本社のほか、富山県、新潟県に営業所を構え、東北地方を中心に活動している。地元宮城県における当社の土木・建築工事实績は数多く、河川工事や橋梁工事、公共施設建設など多岐にわたり、地域の社会資本整備の発展に尽力してきた。事業の多角化として、再生可能エネルギー事業やリゾート施設賃貸業、海外でのアパートメント事業など幅広い事業を展開しているほか、環境保全活動や地域防災パトロールなどの社会貢献活動にも積極的に取り組んでいる。「地域にとって本当に必要とされる企業」を目指し、時代の変遷とともに、将来を見据えた事業展開は高く評価できる。

東日本大震災の際には、がれき撤去のほか、道路・堤防等のインフラや公共・民間建築物の復旧に率先して取組んだほか、経営者自身が、震災の実体験や復興需要の現状などの講演を数多く行っており、防災意識の醸成に大きく貢献した。近年では、被災沿岸部の再生と交流人口拡大を目指す目的として、仙台市が進める震災復興事業である「仙台市東部沿岸部の集団移転跡地の利活用事業者」に参画、若林区藤塚地区において複合温泉施設「アクアイグニス仙台」の計画を進めており、被災地域に対する貢献度は大きい。

また今後の震災復興需要減退を見据え、沖縄でのリゾートホテル事業を展開。沖縄伊良部島近隣では、空港旅客ターミナルの開業で観光客数の増加が期待されており、建設業の人手不足も続くことから、東北からの人材を送り込むなど、震災復興需要が落ち着いた後の地域の雇用の確保にもつながるものと期待されている。

土木、建築、不動産賃貸、自然エネルギー、海外事業、農業の6つの事業への多角化は、これからの修繕維持時代を乗り越えるための取組みであり、より高度な視点で社会地域への責務を果たしていくものである。当社の長年にわたる地域経済への貢献と、時代のニーズに即した積極的な事業展開は、県内を代表する総合建設業として今後更なる成長・発展が期待される。

以上



賞状

七十七ビジネス大賞

株式会社深松組

代表取締役社長 深松 努様

貴社は永年にわたり宮城県内の
産業・経済の発展に寄与され
その功績はまことに顕著なものが
あります

よってここにその栄誉をたたえ
「七十七ビジネス大賞」を贈ります

二〇一九年十一月二十六日

公益財団法人七十七ビジネス振興財団

代表理事 鎌田 宏



第22回「七十七ビジネス大賞」「七十七ニュービジネス助成金」贈呈式
公益財団法人 七十七ビジネス振興財団



第22回「七十七ビジネス大賞」「七十七ニュービジネス助成金」贈呈式
公益財団法人 七十七ビジネス振興財団



ケディカナなど ビジネス大賞

七十七振興財団

七十七ビジネス振興財団（仙台市）は26日、宮城県内の産業発展に貢献した企業・団体に贈る本年度の七十七ビジネス大賞（奨励金50万円）に、金属製品製造のケディカ（仙台市）と建設業の深松組（同）を選ん



賞状を受け取るケディカの三浦常務（右）

だ。

仙台市青葉区のホテルで贈呈式があり、財団の鎌田宏代表理事が賞状と目録を手渡した。

メッキなどの表面処理製品を手掛けるケディカの三浦直暁常務は「環境負荷を軽減し付加価値を高める製品を作ってきた」と胸を張った。深松組の深松努社長は「東日本大震災後に世界中から頂いた恩にこれからも報いたい」と語った。

新規事業が対象の七十七ニュービジネス助成金（200万円）の交付先は、食品用資材卸売りの青葉化成、地域プロデュース業のアキウツリズムファクトリー、ソフトウェア業のバイスリープロジェクト、食料品製造のファイトケム・プロダクツ（いずれも仙台市）、防災備蓄食製造のワンテーブル（多賀城市）の5社に決めた。

22回目の今回は大賞に7件、助成金に42件の応募があった。